

Save The Tropical Forests



森の通信

2012.3.27



▲ 原生種の苗を村人と植林した森へ向かうエコツアーの風景

CONTENTS

- people 24 ジョウ・ジョウカ …… 3P
- ウータン・ホルネスエコツアー …… 4P
- 「初めてのタンジュンハラペン村」 …… 7P
- LAMANDAUでの植林活動 …… 9P
- 世界の森林ニュース …… 13P
- 2012年ウータン活動方針 …… 14P
- 新刊紹介「アマゾン・シンワへ続く森の道」 …… 16P
- 新聞記事「森が消えるへブラジル」 …… 18P

ウータン・ボルネオエコツアーを終えて

2012年1月7日から13日まで、ウータンとして初めての本格的なエコツアーを無事に終えることができました。

いきなりセミワイルドのオランウータンに出くわしたり、村人の買った土地が企業に伐採されている現場に出くわしたり・・・苗作りグループとの植林では、みなが森の中を歩いて、一緒にいくつもの苗をがんばって植えました。日本語で挨拶してくれた村の子どもたちとは、環境教育を一緒に行いました。ホームステイを通しての交流は、参加者みなさんの心にあたたかな何かを残してくれたようです。

タンジュンハラパン村の村人は、歓迎パーティやさよならパーティ、アクティビティ、ホームステイの受け入れなどの準備をしてくれ、エコツーリズムグループのリーダーのバナさんからも感謝の言葉をいただきました。バスキさんをはじめとするF.N.P.Fのメンバーや、ボゴールのNGOメンバーもみな喜んでくれたと思います。

なにより、このツアー自体がすばらしい参加者に恵まれたことが大きかったと思います。ハプニングもありましたが、無事にスケジュールがこなせたのは、みなさんのチームワークのおかげだと思います。あと、先行して現地へヶ月行っていた三原和也君が大活躍でした。長く滞在することで、よりよい村との信頼関係が築けたかと思っています。

詳しい報告はウータンホームページ(<http://hutang.jimdo.com/>)に掲載しています。

また、第二段を今年の夏ごろに予定しております。みなさまもぜひ、美しい大自然と素朴な村人とオランウータンたちに会いに来てください！

石崎 雄一郎

【ウータン活動報告】

- 2011・12・17-2012・1月 ラマンドウ保護区、タンジュン・プティン国立公園で植林活動*三原
 2012・1・7-1・13 第1回エコ・ツアー開始、石崎等がタンジュン・プティン国立公園へ
 1・7-1・13 西岡、地球環境基金現地説明会・タンジュン・プティン公園等やNGOs 聞き取り
 1・14 三原、植林活動から帰国
 2・4-5 One World フェスティバルへ参加*石崎、春日、浅田、三原等
 2・12 ウータン総会で会則の 部変更等の改定を確認

People(24) save! the World's Forests

—サラワク州先住民・カヤン人のリーダー・Jok Jaw Ibon(ジョク・ジョウ)さん

Sahabat Alam Malaysia Sarawaki/Mardi(マレーシア・地球の友サラワク・マルディ)でも、カヤン人村ウマ・バワンでも人々のコミュニティ作りに奔走し、活躍した。再度PRする！



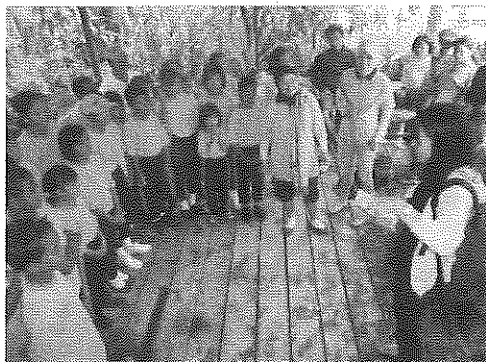
(photo/文・Nishioka)

FoEJapanの招聘で2010年来日のジョクさん。古いウータンのメンバーでは馴染みの人。サラワク州先住民のカヤン人のリーダー。彼は「カヤン人も若者が田舎の村に残り、自分達の村のあり方を求める」と村人と討議し、ウマ・バワン村で原生林保護、養魚地域産物の見直しをして、村作りを1990年代から始めた人だ。企業の伐採に反対の声を上げ、1990年92年と日本へ来て講演。彼が『原生林保護！先住民の声を聞け』とPRしてからサラワク州政府は、「彼が海外で講演させてはダメ」と彼のパスポートを取り上げた。それだけ彼の声が正しかった。かたや今も、サラワク州タイプ首相は木材賄賂スキャンダルにまみれる。ジョクさんは、「私も60歳。今度で最後のPRだろう。子孫、海外の多くの人に再度訴える。原生林保護は重要な課題だ。サラワク州でのアブラヤシ開発、ダム開発についてはStopさせねばならない。先住民にプラスにならない。今後この2つの開発は大きな問題となる。私はサラワクの先住民の生活改善に今後も努力したい」と大阪でも訴えた。

ウータン・ボルネオエコツアー 参加者の感想

「温かくて、暖かい場所」

柿本麻里（かつきー）



私は今回のツアーを通して、現地の人たちの暖かさをたくさん感じることができました。正直初めのうちは、言葉がほとんど通じない中で、の村でのホームステイや、NGOのトップの方々との食事会に不安しかありませんでした。しかし、一緒に生活し、話をしてみると、誰もが私たちのことを理解しようとしてくれ、親切に接してくれました。特にホームステイ先のファミリーは、食事の時も出かける時も常に私たちのことを気にかけてくださり、その優しさに感動する場面が何度もありました。食事に出して

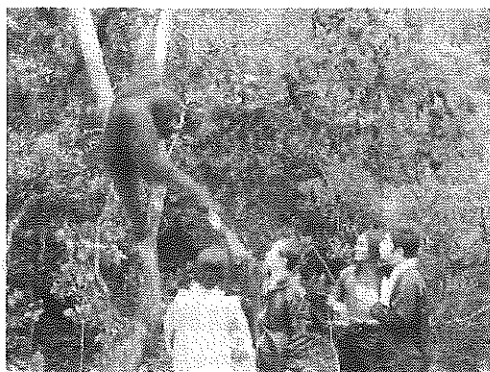
くださったナシゴレンやミゴレンもとても美味しかったです。

そして、このツアーでアブラヤシプランテーションを訪れてみて、30年後にはこの地が使えなくなっているということを開き、恐怖心を抱いたことが記憶に残っています。人も森も共生していける環境づくりは簡単に達成できることではないけれど、自身の生活の中に少しでもできることを探していきたいと思いました。

「エコツアーを通して、私の目と耳で感じたプランテーションの開発」

寺南智弘（てらみん）

今回のエコツアーでは、現地で開発されるアブラヤシのプランテーションを見学する事ができました。まず驚いたのは、飛行機での移動中にプランテーションを上空から見た時で、その開発規模が非常に大きい事が分かりました。また、周囲を流れる河川も、農園から流れ出す土壌によって茶色く濁っている事も確認できます。フィールドワークでは、この茶色い川を船で移動しつつ、実際に農園開発が行なわれている現地を見学することが



できました。その最中には、森林伐採が行なわれた直後の農地開発予定地を訪れる事ができ、開発に伴うインパクトの大きさを実感する事ができます。さらに、こうした開発では土地所有者と開発者との間にトラブルが生じ易く、開発者による強引な開発が問題になっています。今回のスタディーツアーでは自分の目や耳で、このような農園開発の規模の大きさや、強引な開発に対する現地住民の反発意見等を確認することができとても有意義でした。

「出会いの旅～知って欲しいボルネオの魅力！」

浅田聡（うさ吉）

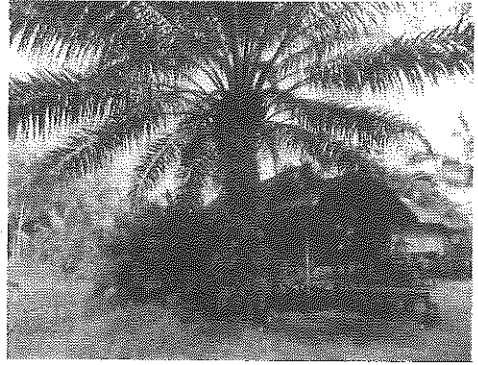
以前から地球温暖化の一要因となっている熱帯雨林の減少について大変関心があり、「地球の肺」の一つとされているインドネシア地域の熱帯雨林の現状について、是非、この目で見てみたいという思いがありました。

またそれと同時に、現地に暮らす人たちが熱帯雨林の再生について、どのような取り組みを行っているのかを学び、「日本人としての自分にいったい何ができるのか？」という自分への問い掛けに対する答えを見つけ出すためにも、このツアーへの参加は自分にとって大変有意義なものになるだろうと思っていました。

そしてツアーが終わり、日本に帰ってきた今、自分が予想していた以上に多くの収穫が得られたことに大変大きな満足感を感じています。

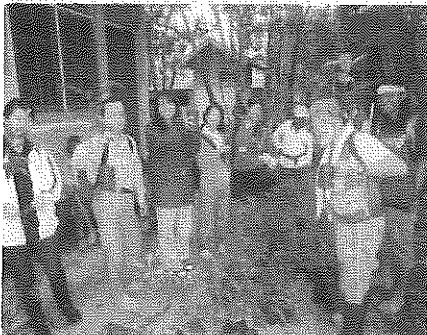
その最大の要因は、現地で暮らす人々の温かな心に触れ合えたことです。何十年も前から大自然の中で生活を営んできた彼らは、とても純粹で清らかな心を持ち、遙か遠方からの来客でさえも、まるで身内のように温かく出迎えてくれて、何か忘れてしまっていたとても大事な事を思い出させてくれたからです。

今回のツアー参加によって、当初の目的のヒントとなる多くの知見が得られただけでなく、国境を越えた人と人との協力によって、いつの日か必ず熱帯雨林の再生が実現できることを確信できたような気がします。機会があれば是非、次回もツアーに参加をしたいと思っている今日この頃です。



「エコツアーに参加して」

高松陽子（よ一こ）



私は当初、違法伐採などの環境問題よりも野生のオランウータンを見たいという理由で今回のツアーに参加させていただきました。

パーム油の植林現場を見学して、自然破壊の現状を目の当たりにしたり、ホームステイをして生活環境の違いの中で家族と共に過ごしたり、私にとって全てが初めての経験でした。

私は今まで環境問題について全く知りませんでした。ですが実際に現地の人と植林の体験をしたり、村の人たちと過ごすことで、日本での何でもそろった生活を有り難く思う反面、自分の生活を見なおしていくべきだなと思いました。

もし今回のツアーが開催されるなら、次回も参加したいです。そして次に行く時は、もう少し、環境問題や現地での言葉を勉強して前回とは違う視点から関わっていけるようにしたいです。

ウータン・ボルネオエコツアー アンケートより

【村での滞在、ホームステイ、子どもたちとの交流】

- ・都会育ちの私にとって、タンジュンハラパンは大切な故郷のような存在です！みんな優しく、暖かくて、大好きです。
- ・ホームステイ先での家族との交流は、今度は逆に日本に呼んであげたいくらい、良くしていただけましたので、大変良かったです。
- ・現地の生活や文化、生活様式を知ることができた点が大変満足でした。
- ・さよならパーティーで村の方が踊ってくれたダンスが印象的でした。
- ・とにかく元気な子供たちで、たくさんの元気をもらえたという感じで、「感謝！」でした。
- ・村の子供たちはみんな元気いっぱい、圧倒されました。日本人からも、もっと環境に関わるプレゼンテーションができれば良かったと思います。
- ・バナさん手作りのお弁当がとってもおいしかったです。あと、揚げたお菓子とかも美味しかったです。日本料理もふるまってあげられたらよかったです。

【苗作りグループとの苗床見学、植林体験】

- ・苗木の植林体験は貴重な体験でした。たとえ数本でも苗木を植えることで、現地の植林がどのようなモノかをイメージすることができました。苗木の販売を副収入とする仕組みも勉強できて、有意義でした。
- ・植林はとても良かったです。ボルネオの熱帯林再生に少しでも貢献できたという実感が持てました！
- ・植林グループのメンバーはみんなとても親切で、参加者にも丁寧に植林方法を教えてくれました。
- ・雨季を満喫出来ました！ずぶ濡れになって、森の奥へみんなが進むのがとても楽しかったです。濡れや汚れをだんだん気にしなくなり、細かいことは気にしない、現地の方の大きな心に近づけた気がしました。

【アブラヤシプランテーションとアグロフォレストリー見学】

- ・プランテーション開発のすさまじさを実感できました。
- ・自然が破壊されたボルネオの現状を少し理解することができてとても有意義でした。特に、バスキさんたちの取り組みやボゴールのNGOの方達の取り組みが、これからますます発展していくことを大いに期待しています。

「初めてのタンジュンハラパン村 *アブラヤシのプランテーション*」

武田裕希子（ゆっこ）

（前号の続き）

ブルーン、ガタガタ…
アブラヤシのプランテーションへは、
村人が運転してくれるオートバイに
2人乗りをして向かった。
道の舗装が不十分な所が多く、何か
のアトラクションのようにピョンピ
ョン飛び跳ねて進む。

運転手さんには、会話が成立する程は英語が通じないので、跳ねる度に「ジャンピング、ジャンピング〜♪」と楽しく1人で喋っていた。すると、笑いながらそれに加わってくれて、2人で「イエーイ！」と、楽しく進んで行った。



そうしてとなり村を過ぎると、アブラヤシのプランテーションが広がった。前後左右、見渡す限りどこまでも続くアブラヤシ。聞こえるのは、ツバメの鳴き声だけで(インドネシアではツバメの養殖が行われている)、他の生物は何も居ない。砂埃を巻き上げて進むバイクの後ろで、どこまでも変わらないその景色に飽き飽きした私は、睡魔に襲われて何度か落下しそうになった。そのくらい、プラン

テーションは広がった。

そんなプランテーションを抜けて、我々はバスキー達FNPFが造っている、アグロフォレストリーの農園に到着した。そこには、FNPFのメンバーが1人と、その奥さん、小さな娘ちゃんが暮らしながら、農園を経営している。

さて、この農園はアブラヤシのプランテーションに隣接しているのだが、これには理由がある。インドネシアでは、伐採権を得た企業が次々に木を伐り、運河を掘る。バスキーいわく、村の土地も放っておくと知らない間に伐採されてしまったそうだ。そこでバスキーは、村の土地とプランテーションの境目であるこの場所に農園を造り、プランテーションの拡大を防いでいるのだ。



また、バスキーはこのアグロフォレストリーに、村の、いや自然と共に生きる全ての人の将来を描いている。地球上からは自然がどんどん失われている。昔のように、大自然からの恩恵を受けるだけではもう生きていけない。だからといって、自然を破壊する生き方に便乗する必要はない。バスキーはこのアグロフォレストリーで、一定の土地さえあれば、1家族が満足に暮らせるという事を示そうと考えている。野菜や穀物を育て、牛や鶏を飼い、フルーツのなる木を植える。自分達が生きて行く為に必要なものは、自分達で育てる。自給自足する力を得れば、ずっとこの土地で生きていけるということを伝え、その力を育てたいのだと、話してくれた。私はこの話を聞きながら、バスキーは本当にこの村を、そして森を愛しているのだな、と強く感じた。そんなバスキーの挑戦を聞き、その日のディナーの食材をいくつか調達して、我々は農園を離れた。

帰り道、バスキーはアブラヤシのプランテーションについて私に説明するために、実の生っている場所でバイクを止めてくれた。私は初めてアブラヤシの実を見たので、少し驚いた。茶色いヤシの実を想像していたからだ。アブラヤシの実は真っ黒で、鼻程の大きさの実が表面にびっしり生っていた。1粒を割ると、中は山吹色で、撫でるとしっとりしていた。これを圧搾して、我々がインスタントラーメン等にするパーム油が作られる。

アブラヤシの実は次々に生り、実を作り続ける。効率良くオイルを生み出すので、パーム油を大量に消費する日本人は、このプランテーションに寄りかかって生きているようなものである。しかし、アブラヤシのプランテーションはこの土地を殺してしまうのだ。アブラヤシはそもそもアフリカに生息する木なので、インドネシアの熱帯雨林には不向きである。土地を乾燥させるために運河を掘り、無理やり育てるために農薬を大量に撒く。しかしそんなプランテーションも、50年もすればもうそれ以上アブラヤシを育てられなくなると言う。運河のせいで、雨水が土地に留まることなく流れ去って行き、大量の農薬に汚染された乾燥地は、もう元の熱帯雨林に戻れない。



しかしバスキーは、プランテーションで働く人を説得したりはしない。彼らには彼らの生活がかかっている。それに、彼らは元々異なる国や地域の人々で、企業に雇われてここで働いているだけだから、この土地が使えなくなったら、パプアニューギニア等の別の土地へ移動するだけなのだ。けれどタンジョンハラパン村の人々のように、昔からこの土地で生まれ育ってきた者は、この先もここで暮らしたいと思っている。ならば別の生き方を見つけ出さなくてはならないのだと。

そう語ってくれるバスキーを前に、この人に出会えたことが私の人生を変えるかもしれない、との熱い感動を覚えた。

LAMANDAU (ラマンドウ) での植林活動について

三原 和也

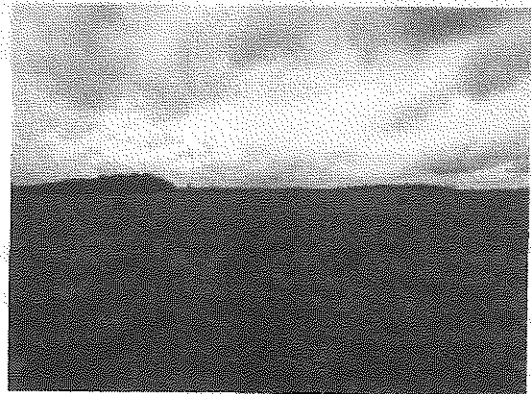
2011年12月16日から2012年1月13日までの約1ヶ月の間、カリマンタンに滞在してきました。その間には、フレンズ・オブ・ナショナル・パークスファンデーション (Friends of National Parks Foundation 以下 FNPF と略) が活動を行っている様々な場所へ連れて行ってもらい、そこでの現状や問題などを聞かせてもらいました。

今回は特に2011年12月24日から、4日間滞在した Lamandau (ラマンドウ) について報告します。

《Lamandau の概要》

Lamandau 地区は、Pangkalan Bun(パンカランプン)市の西方に位置しており、スピードボートで Sungai Pasir (スンガイ・パシル) 村へ行き、タクシーに乗り継いで、歩いて (迎えに来てもらえればバイクに乗って) トータル4時間くらいかけて向かいます。

この地区での活動は、2009年から始まったばかりで、植林活動も初期段階にあります。また、2011年の夏頃には大きな火災があり、植林後の新しい苗木も被害にあってしまいました。その後、再び植林を開始し、僕が訪れた時までには約2300本の苗が植えられていました。この地区も、かつては木に覆われていたそうですが、現在では違法伐採などにより、写真のように裸地化してしまい、小さな森が点在するのみとなっています。



FNPFの小屋の裏にも小さな森と小さな川が存在していますが、そこ以外は、周囲と同じように木の生えていない裸地となっています。

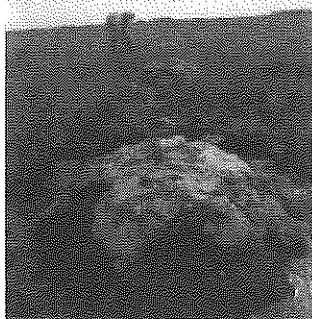
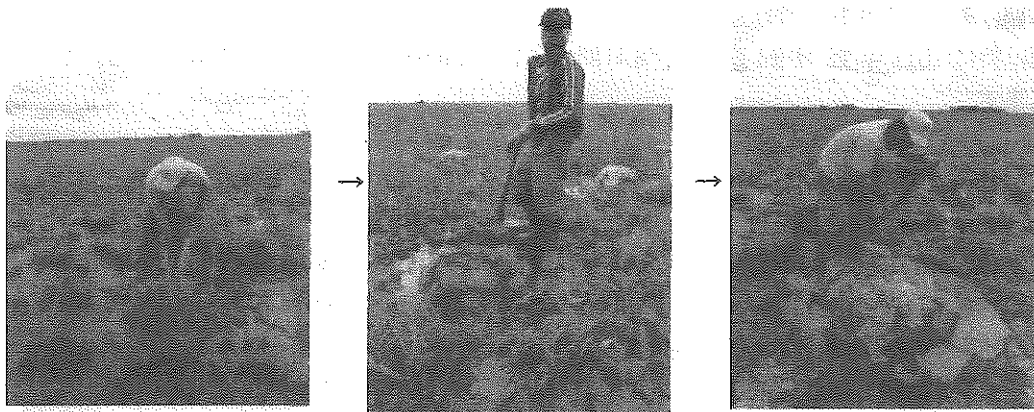
この土壌は、表面に薄く存在するだけで、その下はきめの細かい白い砂になっています。そのため、苗の根が土壌に活着しやすいように、周辺の薄い土壌をかき集めて、養分が集まるようにして植林しています。植林している樹種は、Balangeran (バランゲラン)、Nyatuo (ニャトウ)、Skimawariti (スキマワリチ)、Ubaru (ウバル)、Pelawan (プラワン) (発音でメモしたので、綴りが正確かはわかりません) の5種と言っていました。その中でも、この土地では、Balangeran の生育が一番良いということで、僕が植林したのはこの種だけでした。

《植林の方法》

植林用の苗の調達には2種類あります。まず一つ目は、小屋の近くの森から自然に芽生えた小さな苗を、採取しポットに移植して、50cm くらいになるまで育てます。森から直接、採取してくるので、この地の原生種でもあり、自然に近い植生を回復していくことができると思います。

植林時の手順は、以下のようになっています。

- ①紐を張り、3m 間隔で、苗を植える位置を決める。
 - ②穴は掘らずに、ポットから取り出した苗を地面に置き、周りから薄い土壌を集め苗を覆う。
 - ③苗の周囲を掘り、掘り返した砂を集めた土の上からかける。苗の周囲は、水がたまるように、しっかりと掘っておく。
- 完成。



このように、鍬の使い方さえうまくできれば、他の地区のように雑草を刈り取る作業をしないでもよく、非常に簡単な作業で植林作業はこなすことができます。が、普段、肉体労働をしていない僕にとっては非常に大変な作業で、それからの日々は、腰痛に悩まされることになりました。そして、手は皮がむけてしまったので、軍手が必要でした。

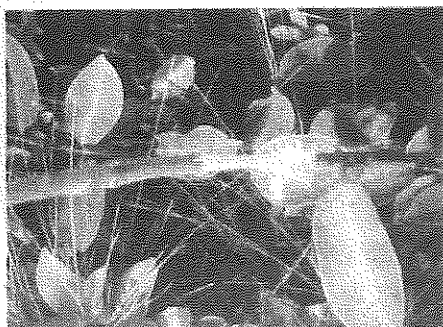
苗の調達二つ目は、森に自生している木からの取り木です。

手頃なサイズの枝を見つけ、5cm くらい表面の皮をきれいに剥いていきます。剥いだところに根の生長を促進させる薬を塗布して、剥いだところが隠れるように土をつけて、団子状に固めていきます。土をつけたところをビニールでしっかりと覆い、土が落ちないように固定します。そして、その状態で1~2カ月放置しておく、皮を剥いだところから根が出て来るので、枝を切り取れば、苗木の完成です。完成した苗木は、そのまま植えたり、ポットへ移植してもう少し生長してから植えたりします。

以上のような方法で、苗木の調達、植林を進めています。

また FNPF は新たに、小さなトラクターとコンポスト製造機を購入しており、Lamandau での活動に使用する予定です。Lamandau の土壌は栄養分が少ないので、コンポストを作り、それを巻きながら植林をすれば、木の生長が促進されます。FNPF のメンバーは、これらの機械を使うことができれば、より効率的に活動が行えると期待していました。ただどうやっ

て Kumai (クマイ) の事務所から Lamandau まで機械を輸送するかと頭を悩ましていました。(その後、無事に輸送でき、Lamandau の地でトラクターとコンポスト製造機は活躍しているようです。)



FNPF の小屋の裏には、上述したように、小さな森が広がっており、他にもパッチ状に小さな森が 2km ほど離れたところに点在しています。3m 間隔で 10 列ごとに、植林していくことで Corridor (回廊) を作り、パッチ状に存在している小さな森をつなげていくことを目標にしています。小さな森にも動物は生息しており、鳥や猿、大きなトカゲなどが見られました。以前にはマレーグマも出没したと言っていました。森と森をつなげると、その動物たちの生息域を広げることもできます。

ここでの活動の最大の敵は、乾期に起きる火災です。火災が起きれば、森のないこの土地ではあっという間に火は広がり、植えられたばかりの小さな苗木は焼け死んでしまいます。しかし、ある程度の広さや幅を持った森林や木の集合地があれば、そこへの延焼は防げるということを、バスキは言っていました。そのため乾期のパトロールに力を入れ、火災を防止しながら、植生を回復していく計画をしています。また、Corridor 状に植林した苗がしっかり育てば、火の延焼も防げると言っていました。

《今後の計画》

・2011 年 12 月の段階では、小屋から 700m くらいまで植林されていて、写真奥の小さな森までの半分を超えたくらい植林されており、1 月中に残りの半分を植林して、森と森をつなげると言っていました。つなげた後は、そこからまた他の森へ緑の回廊 (Corridor) を作っていく予定となっています。

- ・ タンジュン・ハラパン(Tanjung Harapan) 村とは違い、ここでは今のところ住民を巻き込んだ活動ができていないのですが、この先、近くのスンガイ・パシル (Sungai Pasir) 村の住民たちとも、タンジュン・ハラパン村のように協力していきたいと言っていました。彼らと協力できれば、乾期のパトロールをより効果的に行えるし、火災のリスクを減らすことができるし、植林活動も現在は FNPF の Lamandau 常駐スタッフ 2 名で行っているの、住民たちと協力できれば植林のペースを上げることができるのとのことでした。



写真(森を切り取られた Lamandau !
森にする植林を開始する)

《Lamandau のスタッフ》



写真右 : Opek,
Tanjung Halapan 出身
とても陽気なおもしろい子です。バスキいわく FNPF で更生させたとのことです。
写真中央 : Syahrin
Sungai Pasir 出身
筋肉ムキムキの真面目な好青年。村の彼の家族のご飯はとてもおいしいです。

ここでは、4 日の間 (実質、移動日もあるので作業は 2 日間) で主に苗木探し、植林、取り木作業を行いました。FNPF メンバーと僕の 4 人で 250 本ほど植林しました。

強烈な風や雨の中でしたが、筋肉の痛みが心地よく毎日が非常に充実していました。スンガイ・パシル (Sungai Pasir) 村では、魚、エビなどの養殖もされており、たくさんのシーフードも食べられました。ココナッツもおいしいです。また、僕は飲めなかったのですが、近くの町にはおいしいヤシ酒もあるとのことです。

ここはタンジュン・ハラパン村との違いも感じるができますし、森を作ることの難しさ、森の大切さを知ることのできる場所なのではないかなと思います。少し遠いですが、みなさんにもぜひ訪れてほしいなと思います。

そして、FNPF が素晴らしい森づくり、植生回復に向けて Lamandau での意義のある活動をこれからも続けてくれることを願っています。

【サラワク州首相、土地やダム建設の汚職発覚】

ブルーノ・マンサ・ファンド(BMF)はマレーシアサラワク州土地測量局で漏れた記録を発見。タイプ(Abdul Taib)州首相と関係31企業にアブラヤシ開発の土地をシンガポールと相当の合計20万ha強与えられた。土地貸与問題は今、サラワク州政府が起こし、州政府は大規模汚職と熱帯林の組織的な破壊で告発されている。また、サラワクを大きく破壊するダム建設も、タイプ氏親族に金が還流するとBMFが報じる。(資料:BMF1・17News等)

【インドネシア大統領、違法材支援停止へ訴え】

インドネシアのユドヨノ大統領は12月、「世界の国々がインドネシアの違法材撲滅へ支援してくれることを栄光に感じるが、合法材のみを購入することを約束してほしい」と再度訴えた。日本の輸入も製材品1位が同国材で、ボルネオ島の違法伐採激減も近年パプア、スラウエシから違法伐採があるとTelapak等がメール報告。(Mongabay12/9)

【森林破壊のAPP社、オランウータン保護PR?】

2011年12月、インドネシア・スマトラの森林伐採監視活動のNGO連合体のアイズ・オン・ザ・フォレスト(EoF)は、APP社(アジア・ペーパー・アンド・パルプ)と子会社が1984年以降、67万haの森林を破壊し、トラの55万haの生息地、オランウータンの1500haの生息地を破壊と報告。WWFはスマトラの森林破壊の一時停止を求めるが、パダン島で森林破壊に住民が抗議を続ける。一方APP社はOFI(オランウータン・ファンド・インター)へ寄付金する。ラマンドー保護区を禿地にしたコリンドー(Korindo)社同様オランウータン保護PRしそうだ。(Mongabay1/24、インドネシアNGOsと1月話合)

【ベトナム政府、やっとな違法伐採の取締まり発表】

ベトナム政府は「違法伐採が環境を損ねるだけでなく、当局の悩みの種だ。違法伐採はEUを含む世界中で、林産企業等に影響を与える」と違法伐採と戦うと発表?(1/10フェアウッドNewsより)

【JATAN、タ・アン社の使用企業へ要望メール】

前号通信に掲載したが、JATAN(熱帯林行動ネットワーク)は、サラワク企業タ・アン(Ta Ann)社が豪州タスマニアの原生林破壊し、同社顧客の日本建材・住宅メーカーが改善しないため、サイバー・アクションを1月末から開始。タ・アン社はサラワク州タイプ首相と親類が経営で、インドネシアでも違法伐採する。(http://taann.com.au)協力を!!

【気候変動会議COP17、森林劣化問題決定は?】

12月開催の国連気候変動枠組条約(UNFCCC)締約国会議COP17参加のJATAN川上氏によると、気候変動問題でREDD+(途上国の森林減少・森林劣化による排出削減)は、2010年COP16カンクン合意で①森林減少から排出削減、②森林劣化からの削減減少、③森林炭素蓄積の保全、④森林の持続可能な管理、⑤国家森林計画の透明なガバナンス、⑥天然林保全や生物多様性保全に合致する行動等が決定。今回COP17では提出の情報が透明性を持ち、1)全利害関係者がアクセスでき、2)国レベルで実施等確認も合意されたが、マレーシア等がアブラヤシ開発林を「森林扱い」へ適用を意図する。また消費国側は長持ちさせる炭素固定させる木製品につき、廃棄されない限りCo2発生無とみなす決議と。(JATAN News)

【違法伐採・密輸ミャンマー、生産激減】

ミャンマーの2012年木材生産量は40%減とミャンマー林業会社の責任者は言う。深刻な森林破壊で自然災害も引き起こされ、外貨獲得の手段の木材輸出は制限されるべき。(フェアウッドNews)

【森破壊・気候変動がアマゾン生態系回復阻む】

「森林破壊や森林悪化、気候変動の組み合わせが、アマゾン熱帯林の回復力を弱め、二酸化炭素の貯蔵力低下や降雨パターン、河川流量の変化を招くおそれ」と、国際的研究チームがアマゾンの研究でネイチャー誌へ掲載した。

(資料: Mongabay等,2012/1/19)

2012年ウータン活動方針～違法材排除から森林再生へ

事務局長・西岡良夫

1. 【オランウータンが住める森作り】と「原生種での植林拡大と泥炭湿地保全を」

1)【オランウータンが住める森作り】—保護と人間との共生へ今こそ必要！

A)現状・①FNPF(Friends of National Parks Foundation)やハラパン村人と交流進む、②FNPF所有地をアブラヤシ企業が2011年に違法伐採し破壊した。③違法材停止で野生のオランウータンがタンジュン・ハラパン村や近辺に戻り、保護が必要、④ハラパン村アグロフォレストリー拡大で人間が果実を食べる森と【オランウータンが住める森作り】の隣接を…安住の地を広げる!!

B)行動・①4～5月に現地、②7月実施、③違法伐採も監視・FNPFメンバー所有地に管理小屋建設、

2)「原生種植林の拡大」と「泥炭湿地保全」へ—CO2削減と森林再生必要(禿地・荒地ラマンドーで植林も)

A)現状・①タンジュン・プティン公園はFNPF約40万本植林/ウータンは火災地1ha分の植林実施も育つ
②タンジュン・プティン公園外で*FNPFのバスキ氏ら自費で土地購入・今後ウータンもサポートへ
③ラマンドー(Lamandau)保護区8月に火災後、11-12月に再植林へ三原くんも参加(3ha植える)

B)行動・①タンジュン・プティン公園湿地やラマンドー再植林へ、②他地区の再植林・村おこしの調査、
③現地行かず支援検討(例・1株X円で日本で購入依頼→エコ・ツアー等で植える。他例1株5千円)
④インドネシア語植林冊子の作成配布・FNPF、Wetlands等と村おこし、植林の検討NGO、村へ
⑤違法伐採等で禿地にされたラマンドー保護区等で火災対策必要

⑥ラマンドー保護区で原生種の植林[本年目標3ha、3年後15ha目標]後、他の泥炭地へ植林の拡大

3)「原生種植林・村おこし」冊子作成の確認から…各団体に配布を依頼?

①インドネシア10億本植林計画・大半早生樹で泥炭地、生態系回復に繋がらず、
②原生種植える必要性・i)泥炭湿地の保全、ii)生態系回復、iii)オランウータン等の生息地の取戻し
③配布・各NGOs、植林希望者、地方行政? ④効果・今後の再植林をチェックでき、拡大を

4)今後の展望・可能性・①TPNPで野生オランウータン戻る割合が増加、②他地区の調査データ収集など

③日本から出来ること(1株購入活動の拡大)→成功すると消費者団体・環境配慮の企業に呼びかけ
④植林地拡大と裸地の植林の進捗度の確認……禿地で植林困難地で成功すれば、他地区へ拡大
⑤1株活動がうまくいけば、今後泥炭湿地保全へと広げられる・CO2排出量減少へ

2. エコ・ツアーと植林

1)第1回目エコ・ツアー

A)評価・①参加者の視野が広がる、②ハラパン村人との交流が広がる、
③互いの希望・意志・社会生活等を確認しあえる ③植林・環境教育の体験—植林拡大へ
④ウータンのメンバーになってもらう など

B)今後・①ツアーのPR方法の検討、②年間実施計画、費用等(次回8月末頃)

③現地旅行社や航空状況のCheck、④タンジュン・プティン公園の植林から泥炭湿地保全へ課題

3. 海外違法材調査…「ボルネオ島違法材取引停止宣言」は困難だったが、密輸10%以下へ追求を!

1)「違法材の海外調査」・1)ボルネオの違法材取引激減(15%/280万㎡→40万㎡+α(継続調査)、2)依頼

A)現況・①密輸が最盛期2002年より15%に激減! 2005年からインドネシア政府・軍が取組むもMalaysia政府・軍は未実施(2010年に一部申入れ)。

②西カリマンタン山岳地のパツ・ケリマン国立公園でサラワク Ta Ann Group RH等違法伐採判明

③東カリマンタン・サバ・11年再調査・船で月数回と陸路(08年サバ木材企業停止も11年再開)

④インドネシア・カリマンタン木材輸出企業が激減し今7社(最盛期27社)も、サラワク企業壊れず

B)行動・①サラワクNGOかWWF等に調査一部依頼(地球環境基金に申請)、②情報交換、③共同調査

2)2010年より密輸材停止拡大・①Rio+20参加検討[違法材激減PR]、②情報交換、③国際的な成果をPR

4. 違法材停止・フェアウッド利用」への活動・・・今年は絶対に自治体へ状況を聞く

1) 合法材推進・違法材排除の調査(主に自治体)ー自治体・企業キャンペーン

A) 現状・・・2012年各都道府県調査ー①九州7県以外に合法材推進が拡大、

②09年未回答・・・兵庫、大阪等で、対策遅れる自治体、

③九州各県の進捗度等で、各県が合法材の推進もある状況、国産材利用PRを!

B) 行動ー①質問調査・・・4月質問ー回答締切5月、まとめ6月か?

②九州と兵庫・大阪・奈良県等へ話し合い7-9月? ③小冊子作成を

④政府にレイシー法を他団体(FoE, JATAN等)と輸入材適用申入れー1昨年林野庁は[意志無]と

2) 「ウリン保護を! キャンペーン」(公共事業でウリン多使用)・・・一時中断ーサバへ密輸無か?

A) 現状・・・①08年12月、インドネシア工業省が突然一部輸出許可、②「西カリマンタン、東カリでも違法伐採有り」とTitian等もインドネシア国内で製材?ー輸出も激減?で、不要か?

B) 行動・・・①インドネシア政府の方針変更時、国立公園や異常違法伐採が判明時一再キャンペーン化?(50社停止だが) ②今後のキャンペーン・・・イ) 輸入が再開かチェック ロ) 停止関連社から?

3) 合法材推進PR・優良企業のPR、消費者へPR・・・11年実施を!ー地球環境基金等で永田さん等の家具作り

A) インドネシア産FSC材推進の企業等・・・ジュテック、トーヨー・マテリアル等、

B) サラワク材不使用への企業のPR

C) 国産材中心で違法材使用なしと判明企業等、

D) 家具等・・・代替材、国産材、フェアなもの、E) FoEJapan等と情報交換

5. その他の取組み

1) 地球環境基金助成(450万円要望ー昨年並みか?)

2) 財政強化・・・(昨年会費未、講演等今年は多くする)

3) HP改編(現在 <http://hutang.jimdo.com/> * 活動概要等改編し、エコツアー、【オランウータン森作り】PR!

4) ウータン新パンフ(等冊子作成/作成)

①現ウータンパンフの残部50部(3000部配布済み)ー3000部今年3月初め作成へ(助成金で)

②合法材推進の冊子ー都道府県の状態、企業の取組み・非取組みなど

5) オランウータン保護・原生種植林PRへ

・・・i) オランウータン保護へインドネシア NGO 招聘で日本講演?

ii) 原生種植林が成功している有様をPR iii) 他団体交流担当などで、大学で講演依頼・・・追求

6) 合法材・違法材資料収集

・・・i) 合法材関連・・・FoEJapan、全木連等、ii) 他のアジア、欧米、南米情報・・・大田伊久雄氏(愛媛大)等に依頼?

iii) 先住民情報・・・Tom氏(サラワクCC)、熱帯林保護団体、パプアの森を守る会

7) アブラヤシ・泥炭湿地保全問題ー情報交換・資料収集・・・日本への泥炭湿地保全PR

8) Rio+20年・・・A) ゲスト集會招聘1名 ①オランウータン関連? ②5月に人選検討 ③集會ー東京・大阪+?

B) 助成つけばブラジルへ1名参加?・・・Rio+20年の全体で大きなPRや事業、決議等少ない

9) サラワク・ダム問題資料収集・・・ブルーノ・マンサ・ファンダがダム建設企業とサラワク州首相親族と癒着暴く

10) CBD(生物多様性条約)や絶滅危惧種の関連・・・資料収集→Rio+20参加時確認が良い

6. ウータン総会で会則の変更についての承認のお知らせ(於:大阪府環境情報プラザにて、2月12日)

第5条(活動の目的達成)につき事務局から追加案として、以前からウータンで実施している違法材停止への活動、オランウータン等の絶滅危惧種保護の活動の他、エコツアーの実施も新たに追加し(線部分改訂)

(4) 海外の原生林等の保全、違法材停止のための各種の活動やオランウータン等の絶滅危惧種を保護するための活動、(5) 熱帯(特にインドネシア)の森林再生、オランウータン等の絶滅危惧種の保護、泥炭湿地保全等に繋がるエコツアーの実施 (10) 温暖化防止や泥炭湿地の保全、

その他に グリーン・コンシューマーの内容追記についても、総会では参加者全員に承認され、

また、第9条(組織の管理・運営状況などの確認)(1)ー(4)の運営で責任体制の新規追加が承認された。

新刊

NPO法人 熱帯森林保護団体 事務局長、初のアマゾン・エッセイ

白石 絢子

Ayako Shiraiishi

熱帯森林保護団体事務局長

アマゾン、 シンガー、続々 森の道

今日は東京 あさってアマゾン

若い感性で出会った
インディオの村、驚きと不思議！

進む開発、 消えゆくジャングル。

インディオの暮らす
アマゾンの森で

今、何か起きているのか？



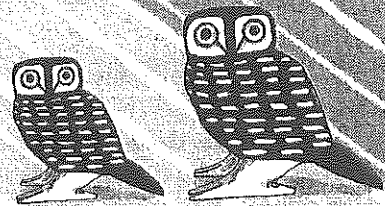
ほんの木 定価：本体1500円（税別）

NPO法人熱帯森林保護団体 事務局長
白石 絢子 著
定価 1,500円 ほんの木刊



■白石 絢子(しらいし あやこ)

NPO法人熱帯森林保護団体(RFJ)事務局長。
1979年東京生まれ。2005年より毎年、代表向によるブラジル現地視察に同行し、支援対象地域であるブラジル、アマゾンのシンガー先住民保護区に入る。現在は専属スタッフとしてRFJの活動をサポートしている。



2012年3月3日発売!

「守るべき大地はどこにある?」
急速に開発され姿を消しているアマゾンのシンヤンガル。
その開発は日本とも深い関わりがあった。
東京で生まれ育った著者「ハイ」こと白石絢子が見た開発の現状。
めったに日本人が入ることのできないアマゾンに暮らすインディオ(先住民)の村を
訪れた驚き、感動、喜び、学びがギュッと詰まったアマゾン体験エッセイ。

ご注文
お問合せ

RFJ TEL:03-5481-1912 FAX:03-5481-1913 xingu@rainforestjip.com

「アマゾン、シグーへ続く森の道」 白石 絢子 著

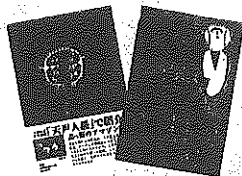
定価 1,500円 ほんの木刊

アマゾンと私。今思えば、それははじまりから奇なるもの
だった。

ある日、近所の商店街の本屋に入ると「アマゾン、インディ
オからの伝言」という本がこちらを向いている。表紙の絵も
なんだか愉快だ。手に取ってぱらぱらとページをめくる。著
者は南研子。写真を見ると、

ヒョウ柄のようなタンクトップに得体
の知らない動物をつまんで、こちらに
笑顔を向けている。どうやら日本人らし
い。私は深く考えず、「インディオ」とい
う言葉にひかれて、その場で購入した。

(本書第1章より抜粋)



熱帯森林保護団体代表 南研子君 (ほんの木刊)



■特定非営利活動法人 熱帯森林保護団体

(Non Profit Organization of Rainforest Foundation Japan:RFJ)

1989年5月設立。2008年、特定非営利活動法人格を取得。代表、南研子。広島、新潟、長崎に支部を持つ。

ブラジル、アマゾンのシグー川流域に位置するシグー先住民国立公園の熱帯林の保全とそこに暮らす先住民(インディオ)の生活存
続支援を主な目的として、毎年代表とスタッフが現地アマゾンへ視察に赴き、支援活動を行っている。

日本国内でも開発の現状やインディオの生活、文化を伝える講演会や催しを実施。明るく、楽しく、わかりやすくをモットーにNPO活動を
展開中。活動を支持する幅広い専門家による顧問の助言を受け、柔軟で効果的な支援活動を実施している。

【連絡先】

特定非営利活動法人 熱帯森林保護団体 〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20

TEL:03-5481-1912 FAX:03-5481-1913 Email: xingu@rainforestjp.com

URL: <http://www.rainforestjp.com> Twitter: @kenkominami @RFJstaff

★RFJの運営は会員と協力者からの年会費、個人、グループ、企業などからの寄付、助成団体からの助成金によりまかなわれています。

会員になり、活動をご支援下さる方は、年会費5,000円。当団体のニュースレター(年3回)やイベント情報(随時)をお送りします。

入会お申し込み及び寄付先は…

・ゆうちょ銀行:郵便振替 00140-3-144187

・三井住友銀行:東京中央支店 普通口座 7066247 (銀行振込の方は、ご連絡先を別途当団体にお知らせください)

書籍のご注文・お問合せ
熱帯森林保護団体

〒154-0012

FAX:03-5481-1913 / 東京都世田谷区駒沢1-8-20

ご注文書
(FAX・メール・郵送可)

ふりがな
*お名前

年齢

性別

男・女

*ご住所 〒

*TEL

FAX

*ご購入数:「アマゾン、シグーへ続く森の道」定価1,500円+送料200円(※複数ご注文の場合は送料が変わります)

(冊)

ご質問等ございましたら、お書き下さい。

メール

通信欄

■このチラシの配布にご協力下さる方は、
枚数をお教え頂ければお送り致します。

(枚)

■熱帯森林保護団体(RFJ)についてお答えいただけますか?(○をお付け下さい)

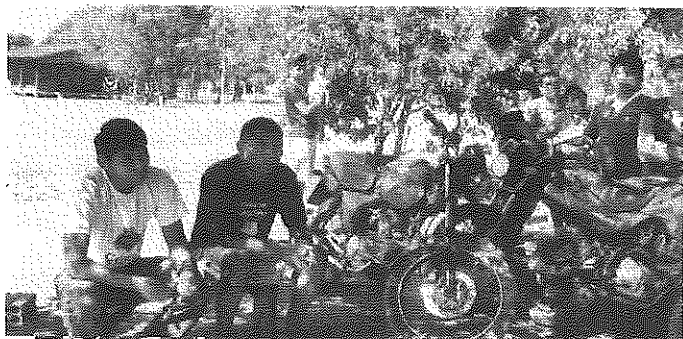
RFJに… (入会している ・ 入会したい)

森林は木材資源を供給するだけでなく、自然の循環を担う。光合成により二酸化炭素（CO₂）を吸収し、雨水を土壌にためる。野生生物をはぐくみ、川の水を豊かにする。森林がなくなると、これらの機能も失われる。世界の森林の現状を報告する。

ブラジル 現金収入求め農地転換



- ④ 森林から農地に転換され、綿花が栽培されている地域を案内する先住民パレシ族のズニザカエさん
 - ⑤ 森林を保全して温室効果ガスの排出権を販売する事業が検討されている先住民パレシ族の村
- ＝いずれも6月18日、ブラジル・マトグロソ州（共同）



- ⑥ 中国の大豆輸入 中国は1990年代半ばから、所得向上に伴って植物油や食肉の消費が増加。大豆は植物油の原料で、搾りかすの大豆ミールは家畜の餌となるため、中国は大豆の輸入を拡大し、世界最大の輸入国となった。輸入量は1997年の287万トから2000年に1041万ト、09年に4255万トに急増。ブラジルからの輸入が特に増えた。

「この辺りはすべて切り尽くされ、農地が変わった。森が残っているのは先住民保護区ぐらいです」

世界最大の熱帯雨林、南米アマゾンの南部に位置するブラジル・マトグロソ州。先住民パレシ族のズニザカエさん(38)は、赤土の上に地平線まで広がる綿花畑を指さし、こう語った。

中国の食料基地に

マトグロソ州はブラジル有数の大豆産地で、1990年代から中国への輸出増加とともに農地が拡大。裏作として綿花が栽培されているこの畑も、9月には大豆が植えられる。

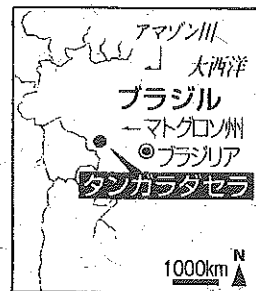
ブラジルが中国の食料基地となる代わりに、マトグロソ州では97～2007年にほぼ北海道に相当する約7万6000平方*の森林が失われた。熱帯雨林のほか、ジャガーやアルマジロが生息する低木林、セラードの破壊も進む。

保護区近くのタンガラダセラで、パレシ族のリーダー格、マイゾキエさん(45)は「水は農薬で汚れ、動物もいなくなり、生活はどんどん悪くなった」と嘆いた。保護区でも現金収入を得るため森林を貸し、農地に転換される例が増えている。

開発防ぐビジネスも

森林が破壊されると、木や土の中からCO₂が放出され、地球温暖化につながる。これに歯止めをかける手法として注目を集めているのが「REDD(森林破壊からの温室効果ガス排出の削減)」だ。

森林を守ってCO₂排出を抑えた場合、放出されずに済んだ分の排出権が与えられ、その売却により途上国側は資金を確保できる。先進国の企業は排出権を購入し、排出量削減目標を達成する。



商社の兼松は保護区で、森林を保全して排出権を企業に売却するビジネスの検討を始めた。森林のCO₂吸収機能を「資源」として再認識し、これを活用して外国から資金を呼び込む。収入の一部は地元へ配分し、病院や学校の建設に充てる計画だ。「大切な森を切らなくても、生活水準の改善につながる」とズニザカエさんは期待する。

REDDがどれだけ環境保護や生活改善に役立つかわからない面もあるが、京都議定書に続く13年以降の温暖化対策の枠組みに盛り込む方向で国際交渉が進んでいる。

このビジネスを手掛ける兼松の矢崎慎介さんは「森林を守るには多くの国からの投資が必要で、早急に新たな枠組みに合意することが大事だ」と話している。

(タンガラダセラ 共同)

●いつもありがとう！ HUTAN 事務局より……

希望の村の苗木づくりの調査など諸費用がかさみ、そのためのカンパを募っております。そのため前回は、すでに会費・カンパをいただいた方も含め、全員に振込用紙を同封させていただきました。それに応えてご寄付いただいた皆様、本当にありがとうございます。一つの村の試みが、ほかの村へにいい影響をあたえれば、と願っております。

年会費は4000円です。
会費カンパの振込用紙をもって領収に替えさせていただきます。
*領収書の必要な方は、お手数ですが、その旨振込用紙にご記入ください。

<会費・カンパ等をいただいた方> (敬称略) (2011.9.1~2012.3.13)

浅田聡 荒川共生 (マイチケット) 池田光司 伊藤万千子 H.I. 井下廣 大林輝
岡本昭子 岡本幸江 加賀瀬みどり 笠原英俊 錦木里子 康由美 久世濃子 栗岡理子
高坂真帆 古材文化の会 相楽美穂 田村節子 千代延明憲 寺川庄蔵 中島紘
浪川光代 畑彰夫・滝沢厚子 畠山誠子 平木雅己 平野誠 藤間剛 (森林総合研究所)

細川弘 三柴淳一 服部隆志 平井英司 福永一美 藤村はるえ 本田次男 南研子
山内美登利
中村義明さん (ご遺族より入金がありました。ご冥福をお祈りいたします)

<おたよりから>

- *いつも前向きな取り組みに感謝です。 池田光司
- *ねばり強い活動ありがとうございます。 岡本昭子
- *かげながら応援しております。わずかですが、活動に役立てて下さい。 古材文化の会
- *使途明示の寄付を募るのは初めてでしょうか。微力ですが……。 田村節子
- *いつも中身の濃いおたより、ありがとうございます。・・本当に申しわけないのですが、フクシマやあちこち支援先がふえて少ししか寄付できません。 福永一美
(大変な中、ありがとうございます)
- *いつもご活動に感謝しています。 山内美登利
- *どこもここも大変。(アマゾンの) シンガーも大変ですが、9月28日、ペロモンチダム建設中止がニュースに。でもブラジルのことなので……アマゾンの森が残りますよう頑張ります。 熱帯林保護団体・南研子
- *世界中変革の時期に入りました。アマゾンの自然とインディオのために頑張ります。

(南さんは、先住民と森を守るため、毎年アマゾンを訪れ、時に危険に会いながら、活動しておられます。先住民の素晴らしいアートを紹介したり、「アマゾン、インディオからの伝言」等の著作もあります。残念なことにその後ダム計画は復活してしまったそうです)

(会計 井下)

ウータン・森と生活を考える会

[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36
サクラビル新館308
「関西市民連合」気付
Tel.06-6372-1561

<http://www.hutang.jimdo.com>

【一部】300円 【年会費】14000円
【郵便振替】00930-4-3880

- ◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。
- ◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。